

# 第3回市民ワークショップ news!

発行：平成27年6月 伊予市未来づくり戦略室 [伊予市米湊820番地 089-982-1111]

## 第3回市民ワークショップを開催しました!

6月13日(土)の午後、伊予市第2次総合計画第3回市民ワークショップを開催しました。今回は『人口減少に負けない魅力ある伊予市を実現するための提案を考える』をテーマに、地域自治をはじめ高齢者支援、子育てなど様々な活動に携わっていらっしゃる方、28名にお集まりいただき、議論していただきました。

はじめに、これまで2回行った市民ワークショップの成果を振り返った後、職員チームから、市民のみなさんに考えて頂きたい、総合計画に掲げるべき6つの重点テーマについて趣旨を説明しました(p2~)。説明を聞いた後、テーマ別のグループに分かれて具体的なプロジェクトの提案内容について検討し、提案シートにまとめました。そして、それぞれのグループのプロジェクト提案を全体場で報告してもらい、どの提案を総合計画に盛り込むべきかを個人でシール投票しました(p4~)。最後に感想カードを書いていただいて(p10~)、最終回のワークショップを終了しました。

今回の総合計画の策定にあたっては、昨年12月に開催したキックオフシンポジウムに始まり、職員ワークショップで検討したプログラムによって3回の市民ワークショップが実施され、8月には無作為抽出によって参加者を募る市民討議会を予定しています。このような多段階の市民参加を実現することによって、多様な市民の声を審議会の議論に反映し、より実効性の高い総合計画が策定されるものと期待しています。これまで3回実施した市民ワークショップの成果をもとに現在、市民討議会の準備を進めています。招待状が届きましたら、利害関係者とは異なる市民の立場から、幅広い議論をして頂くよう積極的な参加をお願いする次第です。

### ~プログラム~

- ステップ1：はじめに
- ステップ2：前回までのワークショップの成果を振り返ります
- ステップ3：伊予市のまちづくりの未来戦略について職員チームより提案します
- ステップ4：それぞれのテーマについて、具体的なプロジェクトを提案してください
- ステップ5：グループの話し合いの結果を全体場で発表してもらいます
- ステップ6：まとめ



最後に、どの提案を総合計画に盛り込むべきか、個人投票しました(1人3票)。

# 伊予市のまちづくりの未来戦略について 職員チームより提案しました

職員チームより、市民のみなさんに考えて頂きたい総合計画に掲げるべき6つの重点テーマについて提案しました。

1

## 『食と食文化』をテーマとした伊予市を活性化するプロジェクト

伊予市の「食」を県内外に広く知ってもらい、持続可能な産業にしていくために、市民レベルで何が出来るのか、何から取りかかれば良いのか？

### 未来づくり戦略室：原田

伊予市でも農・海産物のブランド化、地元産の加工品商品の開発と販路拡大、食文化を普及させる事業を行っている。それらを儲かる商売として確立することは、後継者の育成や新規従事者の獲得、地域経済の振興、持続的発展につながる。

しかし行政主導での地域活性には限界があり、市民から盛り上げた事業展開を図る仕組みづくりが必要だと感じている。

### 青年農業者協議会会長：仲神さん

伊予市上三谷で茄子を栽培している。美味しく新鮮な野菜への思いを、消費者の方にどう伝えるかをいつも念頭に置いている。農業における後継者不足と共に、食や食文化についてもしっかりと考えていきたい。



2

## 国体をきっかけにした『市民スポーツの普及拡大』によるまちづくりプロジェクト

国体終了後に伊予市で行われた競技を普及、定着させるために、また市民が今まで以上にスポーツに親しんでいただくための環境整備に対して、市民と行政はどう取り組むべきか？

### 国体推進課：吉田

2017年に愛媛県で国民体育大会が開催され、伊予市ではホッケー、バレーボール、ビーチバレーなどが予定されている。国体の成功と共に、国体終了後に伊予市で行われた競技を普及、定着させていくことも大きな課題であると考えている。また国体をきっかけに、市民の方々が今まで以上にスポーツや運動に親しむ気運の向上や環境整備を行わなければならない。

### 伊予市体育協会理事長：沖さん

旧伊予市と、双海、中山との合同での行事が一体となって出来ていないという課題がある。合併して10年経ったので、伊予市全体での行事を今後も進めていきたい。



3

## 地域による子育てをテーマとしたプロジェクト

行政サービスでは対応できない部分について、市民が主体の、地域社会が一体となった新しい支え合いの仕組みを考えられないか？

### 市民税務課：井上

昨今、子育てを手伝う知り合いが少なくなったと感じているが、これは地域コミュニティの衰退や行動の多様化、広域化が大きな要因であると言われている。こうした現状から、保育所や放課後児童クラブでは対応できない部分について、地域の未来を担う子ども達や子育て世帯をどのように支援していくかを話し合いたい。

### 伊予市子育て支援センター ファミリーサポートセンターマミサポまかせて会員：前田

自分の子どもが小さい時に助けていただいたことを、皆さんに返していくような活動をしている。子ども達の為の良い知恵を一緒に考えたい。



## 4

### グリーン・ツーリズムによる交流人口拡大プロジェクト

グリーン・ツーリズムをきっかけに、伊予市の交流人口を増加させ、地域をどのように盛り上げていくか？

#### ブランド推進課：渡邊

グリーンツーリズムとは農村、漁村に滞在し、地域の自然や文化に触れ、人々との交流を楽しむ滞在型、体験型観光の一種で現在、双海町を中心に積極的に取り組んでいる。もっと多くの方に伊予市に来てもらうには、もてなす側が楽しくもてなすには、どのような体制、方法で取り組んでいけば良いのか。グリーンツーリズムをきっかけに、伊予市の交流人口を増加させ、地域を盛り上げていくかを多面的に気軽に話し合いたい。

#### 伊予市グリーンツーリズム推進協議会会長：西岡

双海は赤い夕日でまちおこしをやり、シーサイドへは年間50万人の人が来ている。17年前にいちご狩りを始めたのがグリーンツーリズムの始まりで、現在はいちご、ピザ焼き体験、こんにゃくづくり、豆腐づくり、じゃこ天の体験、シーサーづくり、ハモ切り体験ツアーなど、13のメンバーで行っている。



## 5

### 景観まちづくりによるまちなか活性化プロジェクト

時代に即した新しいまちづくりにとって必要なものは何か、地域を「まちなか（中心市街地）」に絞り、活性化させるアイデアについて考える

#### 水道課：水野

近年、個性ある美しい景観の形成が求められる一方、全国どこも同じような景観が見られ、地域らしさ、個性が失われつつある。景観は地域で営まれてきた暮らしや活動が積み重なって存在するものと捉え、景観行政に取り組んでいる。具体的には景観区域を定め、建築行為に一定のルールを設けて、景観の向上を図っている。また建材使用への補助、景観形成を目的とした活動団体に助成を行うなど、地域住民による景観づくりを支える仕組みも設けている。

#### 建築士会伊予支部副会長：渡辺

建築士会では歴史的価値のある建造物が構成する街並みを地域の文化資産として保存、活用し、後世に継承していくための能力を持つ専門家（ヘリテージマネージャー）の育成事業を行っている。こうした活動を通じて人材をまず育成し、各地域の街並みや保存活動、地域に少しでも役立てればと思う。



## 6

### 社会的弱者の視点から考える住みやすい伊予市実現プロジェクト

高齢者や障害者の視点に立って、住み慣れた地域でその人らしく生きがいを持って暮らしていくためには、地域と行政がどのようなことに取り組んでいくべきか？

#### 未来づくり戦略室：向井

伊予市の65才以上の人口比率が全体で30%を超え、障がい者も増加の傾向にある。地理的要因やインフラの整備、事業者の有無などから、必要とするサービスが選べない、受けられないなど、支援の地域間格差が確実に広がっている。これらの問題を解決するためには、地域ぐるみでの支援体制を構築するなど、助け合いの精神を持った地域づくりを進める必要がある。

#### 伊予なぎさ園施設長：日野林

施設長と兼務して、伊予市の障がい者の相談支援専門員もやっている。旧伊予市と中山、双海の地域格差があり、中山や双海ではサービスを利用出来ない方がいる。伊予市の地域力で何か出来たらと思い参加した。

#### 伊予市地域包括支援センター高齢者総合窓口：相田

日々、介護保険だけでは高齢者の方を支えきれないと感じている。行政だけでは住民にとって本当に必要なことが準備できるかという不安がある。





# 具体的なプロジェクト提案

興味のあるテーマに分かれ、市民主体で市と協働して取り組んでみたい具体的プロジェクトをグループで検討し提案シートにまとめました。発表を聞いた後、どの提案を総合計画に盛り込むべきか、個人でシール投票（1人3票）していただきました。【★の中は得票数】

## 【1グループ】 プロジェクト「イヨ」 なんにでも「イヨ」って付けちゃえ!!



### <現在の状態>

- 生産量日本一のモノがたくさんある。
- 高品質なモノが多い。
- 生産者の発信不足。地元愛不足
- 地元の人の発信力、認識不足

生産量日本一のキウイは、ほとんどだが伊予市で作られている。その他、紅マドナ、晩白柚、削り節など、生産量日本一のものがたくさんある。

ハモは京都で食べられている高級食材だが伊予市産のものが多いらしい。

生産者の発信不足、地元愛が不足、地元の認識不足が課題。生産者は、消費者に「美味しい」と言ってもらうことで自信が付き、それが地元愛につながるのでは？

### <目指す姿>

- 生産者と地元市民（消費者）をつなぐ場が必要
- 市民(個人)レベルで情報発信
- 伊予市（イヨ）という言葉のブランド化

市民レベルでの情報発信として、例えばフェイスブックなどが盛んに行われているが、それは若者も使うツールなので、若者にも周知することが出来るのではないか。

### <具体的な取り組み>

- 市民レベルでネットコンテンツを使った情報発信
- 売り方の工夫（産直市、軽トラ市）
- とにかく「イヨ」を使おう！

伊予は愛媛の昔の名前で、そういう地名が今も都市名として使われているのはなかなかないので、これをブランド化出来たら良い。

生産者と地元市民をつなぐ場としての産直市や、今双海で行われている軽トラ市を定期的にいろんなところで行うべきではないか。

### <行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者>

- 農林漁業の生産者
- 伊予市民みんな

### <行政に支援して欲しいこと>

- 広報や公式発表
- アドバイザーや有識者の紹介

イヨナス、イヨハモなど、とにかく「イヨ」という言葉を前面に押し出していくべきではないか。



## 【2グループ】 一生スポーツしますプロジェクト

12票

### <現在の状態>

#### ○する人、しない人、地域差がある

- ・スポーツしない人、興味のない人がいる。
- ・旧伊予市、双海、中山とのスポーツ交流が少ない。
- ・スポーツの普及。スポーツをする機会が地域内での活動に限定されているイメージ
- ・地域内で固有のスポーツが盛ん（中山…バレーボール）
- ・地域内でバレーボール大会が開かれている。
- ・ビーチバレーの伊予市の人員が少ない。

#### ○施設の整備状況

- ・様々なスポーツに関わることができる施設が整備されている（国体に伴って）。
- ・国体をきっかけに施設が整備される。
- ・しおさい公園競技場以外に多く人が入る競技場がない。

#### ○なじみがない

- ・ホッケー人口が少ない。
- ・ホッケーになじみがない。
- ・ホッケーやビーチバレーなどでも参加出来る環境は出来つつある（HIMEカップ）など。
- ・パワーリフティングを知らない。
- ・伊予市での国体開催競技はあまり知られていない。
- ・伊予市に団体種目の先進県のチームがやってくる。

### <目指す姿>

#### ○運動をする人を拡大

#### ○伊予市全体での運動会の実施。スポーツの普及

競技の情報やスポーツの機会が少ない。

### <具体的な取り組み>

#### ○参加の機会を増やす

- ・スポーツ教室などの参加
- ・する機会、みる機会を増やす。
- ・スポーツを公開する機会を設ける。
- ・小、中学生にいろいろな競技を経験させる。
- ・競技の中に参加出来る状況を作る→競技団体への声かけ

#### ○スポーツを広める工夫

- ・市民、小学生、中学生への宣伝
- ・ニュースポーツなどで始めるきっかけ作り
- ・市民が関わりやすいルールの作成

運動は健康につながる。健康な市民が一人でも増えるところに着目する。

子どもも高齢者もできるようなホッケーの新しいルールを考えて、伊予市のニュースポーツとしてはどうか？

### <行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者>

- 地域体育団体
- 小中学校
- 競技団体

### <行政に支援して欲しいこと>

- 情報発信（HP等で）
- 施設を増やす

競技スポーツでも健康づくりでも良いので、運動する方を増やしていく。

認知度が低いホッケーだが、今は競技団体が毎週、競技場で練習しているし、毎年しおさいでホッケーの高校生の大会をやっている。知らない人が多いので、まずは競技を見に来ていただく機会を作り、行政から情報発信をするべき。



## 【3グループ】 子育ては地域育てプロジェクト

9票

### <現在の状態>

#### ○子育てのサポート不足

- ・子育て支援センターが1カ所しかないので、双海、中山の方は利用が難しいのでは？
- ・児童クラブも満杯状態
- ・働きたくても子どもを預ける保育所が定員いっぱいでは預けられないとよく聞きます。
- ・子育てを手伝ってくれる人や知り合いが少ない。
- ・同じ子育て世代同士の関係づくりや、高齢者との関係づくりが難しい。
- ・頼りになる人、子育てについて教えてくれる人が少ない(転入してきたばかりの人等)。

#### ○コミュニティの衰退

- ・少子高齢化による地域コミュニティの衰退
- ・伊予市三島町下組には子どもが1人もいない。

#### ○遊び場が少ない、交通問題

- ・自転車が危ない。
- ・遊び場が少ない。
- ・安心して遊べる遊び場がない。
- ・空き地が多いので、思いっきり走って跳ねて遊ぶ場所が欲しい。
- ・児童館がない。
- ・子ども同士だけで遊ぶことがない。
- ・幼稚園、学校から帰ってから友達と遊べるには？
- ・友達の家への行き来がない。

誰がどこにいるのか分からず、頼る方が少なくなっている。

### <目指す姿>

#### ○子どもの声ができるまち

- ・子どもの笑顔が見える、声が聞こえる場所(公園)があれば。
- ・子どもの楽しい声が聞こえる町にしたい。
- ・子育てをしたくなる町にして、若い人に来てほしい！

#### ○子育てのサポートの充実

- ・地域の公民館に児童館、あそび広場を併設する。一時預かりもできると良い。
- ・保育所、児童クラブ、パイを増やすか施設を増やす。
- ・遊び場と交通の分断

子育て施設以外の地域の施設とも交流をして関係づくりをしていけば地域コミュニティが作れるのではないか。

#### ○多世代の交流の場づくり

- ・子どもが高齢者を訪ねる参観日を設けて昔話や郷土料理、農業等を一緒にする。
- ・高齢者と子育て世代の接点を増やす→子どもを預けられる関係
- ・同世代だけではなく、高齢の方も幼い子も会える場所がある。
- ・子どもだけじゃなく、保護者も含めた地域ぐるみの付き合いができる社会
- ・保育所、幼稚園、小学校と連携。地域老人会もまきこんでの行事とか。
- ・近所の人達にもしっかりとあいさつをさせたい。「どこの誰」と覚えてもらいたい。
- ・定年後の元気な高齢者に出てきてもらう。
- ・地域コミュニティをつくる子ども、子育て世代、高齢者、ご近所付き合いの濃い地域
- ・公園などで定期的なイベント(行けば誰かいるという安心感)

### <具体的な取り組み>

#### ○交流のきっかけづくり

- ・交流のきっかけづくり
- ・市全体の子ども達(子育て世代)と高齢者の交流イベント
- ・子ども参観日。子どもが高齢者のところに遊びに行く。サロン⇔児童館など。
- ・とにかく発信。魅力を伝える。

#### ○ネットワークづくり、人づくり

- ・横のつながりを強化。社協、ボランティアセンター、保健センター、子育て支援センター、医療生協
- ・子育てのみではなく、他の活動にも繋げる。
- ・ボランティアを増やす。
- ・しっかりした事業主体をつくる。

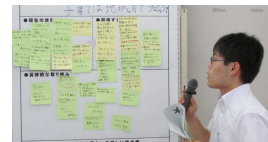
交流のきっかけをつくるにはどうしたらいいか。

小さなことでもコツコツやっていくことで魅力の発信になる。そういったことが安心して暮らせる地域という認識にもつながる。

<行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者>

- イベントリーダー、イベントグループの育成
- 地域おこし協力隊
- シルバー人材センターの人たち
- 学校

イベントリーダーなどに市民が関わることで市民の考え方が直接盛り込める。



<行政に支援して欲しいこと>

- 声かけを市でも手伝う。
- 時間帯の調整が必要→高齢者のサロンは午前中とか。各施設を共有していけば良い。
- 「箱（入れ物、建物）」ではなくて「場所」をつくってほしい。



【4グループ】 立ちどまり、感じるひとづくり GTプロジェクト

17票

<現在の状態>

- 人に魅力がある。
- メインの仕事の片手間になっている。
- 旅行先の通り道になっている。
- 知名度が低い。
- 人を受け入れる器がない。

頭文字Gの横棒を取るとCT。コミュニケーションツールズムと言ってもいい。交流をもっと進めたい。

<目指す姿>

- 修学旅行等の受け入れ
- いかに観光客を立ち止まらせるか。

専任で取り組める規模ではないので、多くの人を受け入れるキャパがない。伊予市全体で言えることだが、旅行の目的になりにくい、通り道になってしまう。

<具体的な取り組み>

- 目的を持った人にターゲットを絞る。
- 口コミが大事。リアルな感じがある。
- 参加者とのコミュニケーション、あいさつ
- 地域で協力できる協力体制、人づくり
- 1人の人に頼りすぎないようにする。
- 宿泊できるような環境づくり

ターゲットを絞って告知をし、口コミを大事にする。参加者とコミュニケーションをしっかりとれるようにしてグリーンツーリズムのレベルを上げていくような取り組みをする。

<行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者>

- イベントをコーディネートできる人
- 地域の人々の協力（受け入れ体制）
- 一緒にやる仲間



<行政に支援して欲しいこと>

- 廃校等を利用してイベントを実施する許可
- 会合への参加
- 行政も参加者とコミュニケーションをとる。





## 【5グループ】 「あじ」なまちを活かしたまちづくり

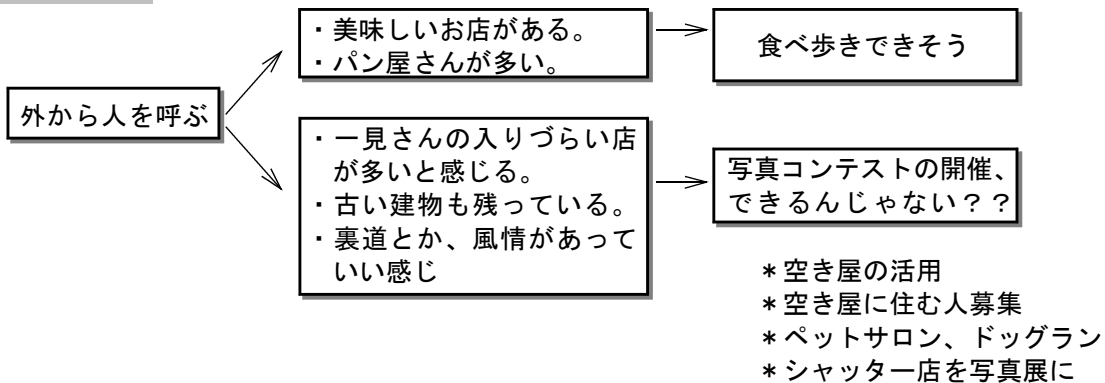
17票

### <現在の状態>

- 平日、来良夢の前の道の車が怖い。
- 港から少し離れると港町の感じがしない。
- どんなお店があるかよく知らない。
- 休日でも人がいない。
- 散歩している人が少ない。犬の散歩は多い。
- シャッター商店街。新しいお店ができていく。

お店はやめても所有権を持ったままなので、新しくお店を建てられずにシャッターを閉めているお店がたくさんある。

### <目指す姿>



### <具体的な取り組み>

- ウォークラリーの開催→まちの魅力の再発見、PR
  - ・食べ歩き、写真コンテスト
- 空き家の再活用 → シャッター店で写真展を開催
  - ・ペットサロンとしての活用
  - ・イベントなどで魅力を感じてもらった人には移住も。

あまり休日でも人が歩いていないが、犬の散歩をしている人は多いので、空き屋をペットサロン等に活用しても面白い。

外の人がまちの魅力を知ると同時に、それを見た地元の人がまちの魅力を再発見できるイベントづくり

### <行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者>

- 商店街の方
- 建築士会
- 学生

若い力も!

プロジェクト名の「あじ」には美味しいお店があるということと、風情のある、味のある街並みという2つの観点がある。

### <行政に支援して欲しいこと>

- 空き屋バンクで情報発信
- ちょっとした休憩施設の設置（公衆トイレ等）

\* 空き屋の中でも危険と見なされた建物で本人の同意が整い、市の施策、地域の活動に利用する目的で解体した場合は非課税とする。





## 【6グループ】 お助けマン登場プロジェクト (弱者を自分のできることで助けられるまちづくり)



### <現在の状態>

#### ○必要な人にサービスが届いていない

- ・住んでいる所によってはサービスを受けにくくなるために家族の負担が大きくなることもある。
- ・(障がい) 地区で事業所がないために、他地区で受けられるサービスが受けられない。
- ・配食、食料品などの買い物。買い物難民
- ・移動支援のデマンドタクシーの制限。現状で満足していない。
- ・コミュニティバスの路線から外れる所の人たちが利用するためには…。
- ・表示していても、漢字では読めないが、ひらがなで読める人にとっては、表示が意味のないものになっている。
- ・普段生活する中で、地域に住む障がい者など、弱者がどこにいるか判りにくい。

#### ○サポートする側の課題

- ・障がいを持つ人へのサポートのしかた、対応のしかた、マナーなどの知識の普及をして、意識の向上が必要ではないか。
- ・エネルギーがある、退職された住民さんの働き場がない。
- ・無償、有償で行うこと。ボランティアするにも何かがあった時に…。
- ・施設に男性職員がおらず、力仕事が不安

これまでのサービスと合わせて、お互いに向上していければ、まちづくり、人づくりにつながる。

### <目指す姿>

- 誰もが行きたい所に行きやすいように、近所同士で声かけしやすい環境づくり
- 利用したいサービスをまかなえるような支援をつくる。
- 団塊の世代を中心としたボランティアで生きがいづくり
- 事故など何かあっても対応できるようにして、安心してお互いが関われるサービス
- 専門性を活かしたボランティアグループをつくる(定年退職者)。
- 移動販売の商店街みたいなものがあればいいのに。

定年退職者の活躍の場をつくる!

### <具体的な取り組み>

- グループをつくって、生産性を目指して活動について話し合う。
- 生きがいづくりを目指す、ボランティアに賛同する定年退職後の人を募る。
- 各々の得意分野が活かせるサービスと、必要とされているサービスを見合わせる。
- 登録制のボランティアグループを立ち上げる。
- 専門職がボランティアグループに対して講習をして、知識の普及と意識を高める。
- 大きくなると出にくいので、小さい単位で活動を図る。
- 共通意識をもてるように、気軽な交流会をする。

小さい単位の方が人が集まるのでは?

### <行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者>

- 愛護班や地域で活動する団体
- 定年退職者
- 障害者団体
- 地域のリーダーを見つける。
- 老人クラブ

### <行政に支援して欲しいこと>

- 横のつながりがもてる会を開催する。
- 専門的職種による講習会
- 情報の収集と発信

団塊の世代の障がい者等をサポートする仕組みが、生きがいづくりにつながる。



# 感想カード

最後に、今日参加した感想などを、自由に感想カードに書いていただきました。

## 今日、参加して感じたこと

- 1班の高級品、キウイ、マドンナ、ハモ、イヨ、軽トラ市。2班は市民スポーツ、国体へ。5班はおいしい物作り、あじなまちづくり。4班はひとづくり、自分の班。
- 伊予市のワークショップに初めて参加させていただきました。今回はテーマを自分で選ぶことができるということで新鮮でした。私は「食と食文化」について考えました。伊予市にはたくさんのおいしい資源があり、それを広めないのはとてももったいないことであると思いました。伊予市のアイデンティティをもっと向上させることで、伊予市の食がさらに元気になっていくといいなと思います。個人的にもまた遊びにきたいです。ありがとうございました。
- 私は3回とも参加しました。私の立場上、高齢者や弱者に対する安心して住みよい環境、町づくりのテーマでみんなで提案しました。しかし具体性に乏しくて、将来への提言が出来なかった事も少し知識不足を感じました。今後、この会を通して総合計画へ伝えられればと思いました。参加できた事で多くの方との交流ができました。
- 楽しい取組を考えていくような雰囲気のできたことが良かったのか、前向きな意見やアイデアがグループみんなから出てきていた。考える側も楽しくやるというのはいいことだと思った。ハードなテーマだったが、自然とソフト面での話し合いになったのは、みんなの共通認識としてこれから今のものをどう活かすか、お金をかけずに効果を出すかというものがあつたように思う。
- 1回のワークショップで6つの面から考え、発表するという形が初めてだったので、発表までがワクワクしました。すぐ先のことでなく、10年後のことなどを見据えて考えると難しいけど、今日は本当に良い経験になりました。もっとガチガチなものかと思っていきましたが、発言しやすい環境で楽しかったです。
- ご近所も高齢者、独居老人ばかりで子どもの姿はありません。そういう所へ横浜から息子達家族が帰ってこようかという話になりました。住む場所、仕事等心配です。市の方でも何らかの助言、支援があれば大変嬉しく思います。ホームページに良いニュースが載るコトを期待します。

## 今後の業務に活かして行きたい

- 現在、行っている業務がそのままワークショップで話し合った結果になっていることに驚きました。今の仕事がどれほど重要な事業であるかを認識できる、非常に有意義な時間でした。
- とても楽しく考えることができました。自分のチームはもちろんのこと、グループ①のプロジェットの「いよ」を付けちゃえ!!の説明を聞いて、私の職場も「伊予なぎさ園」なので、“伊予”を大切に、伊予市に根ざした職場になるために、地域の中で頑張っていきたいと再認識したワークショップとなりました。ありがとうございました。
- 1人では考えられないことや、担当課だけでは出ない実現するために何をすることが明確になったような気がします。普段は話せないことや、あまり関わる事ができない方とも話をする事ができ、今後にも活かせるとても貴重な時間となりました。住民さんの力をお借りしながら、業務に励みたいと思います。ありがとうございました。



## これからも考え続けたい

- 本日のワークショップではグリーンツーリズムをきっかけに、観光や交流人口の増加について様々なことを考えさせられました。私は松山市や内子町と比較して、人を呼ぶにはハード面が不足していると思っていましたが、伊予市には魅力的な人がいるのだなとしみじみ思いました。この伊予市の宝を磨き、交流人口を増加させるための具体的な方法についても研究したいと思います。
- 伊予市の総合計画のワークショップで、自分の意見がそれに少しでも反映されると思うと、どのようなものができるのかとても興味がわきます。どの点においても伊予市が住みやすい場所になるためには不可欠なことなので、総合計画に載ることがなくても考え続けていかなければいけないと思います。発表の中で特に気になったことは、ホッケーを伊予市でもっと普及していくことです。ホッケーが市のスポーツになると、市の強いアイデンティティになると思いました。
- いろいろな立場の方々の率直な意見を聞くことができ、とても参考になりました。これからも伊予市の中で、自分が何をできるかを意識して生活したいと思いました。今日はありがとうございました。
- いろいろなプロジェクトを聞き、伊予市の魅力の情報発信をよりしていく必要があることを痛感しました。体育関係の普及並びに小中学生から大人、高齢者までの健康作りを今日考える機会を与えていただいたことに感謝します。これからも各催し物に参加して、一緒になって考えていきたいと思います。今日はありがとうございました。
- 今後も伊予市で暮らしていく上で、自分事として大切なテーマばかりで、こういうことを1人ではなく、市民同士が声に出して話し合える環境というもの自体が大事なものだなと改めて感じました。
- 行政や市民、学生のそれぞれの人々が持つ情報や意見を共有することで、大きなモノになる可能性を感じました。今後もこのような様々な立場の人が意見し合う機会を持続的に設けるべきだと思います。
- 6つのテーマにわかれて行ったので、他チームの発表がどれも新鮮で面白く聞けました。話し合いの中で感じたのですが、場に有識者の方がいるとわからないことが少なく、話し合いがしやすかったです。今後とも、このような住民を交えての話し合いは増やしてほしいと思いました。

## 勉強になった

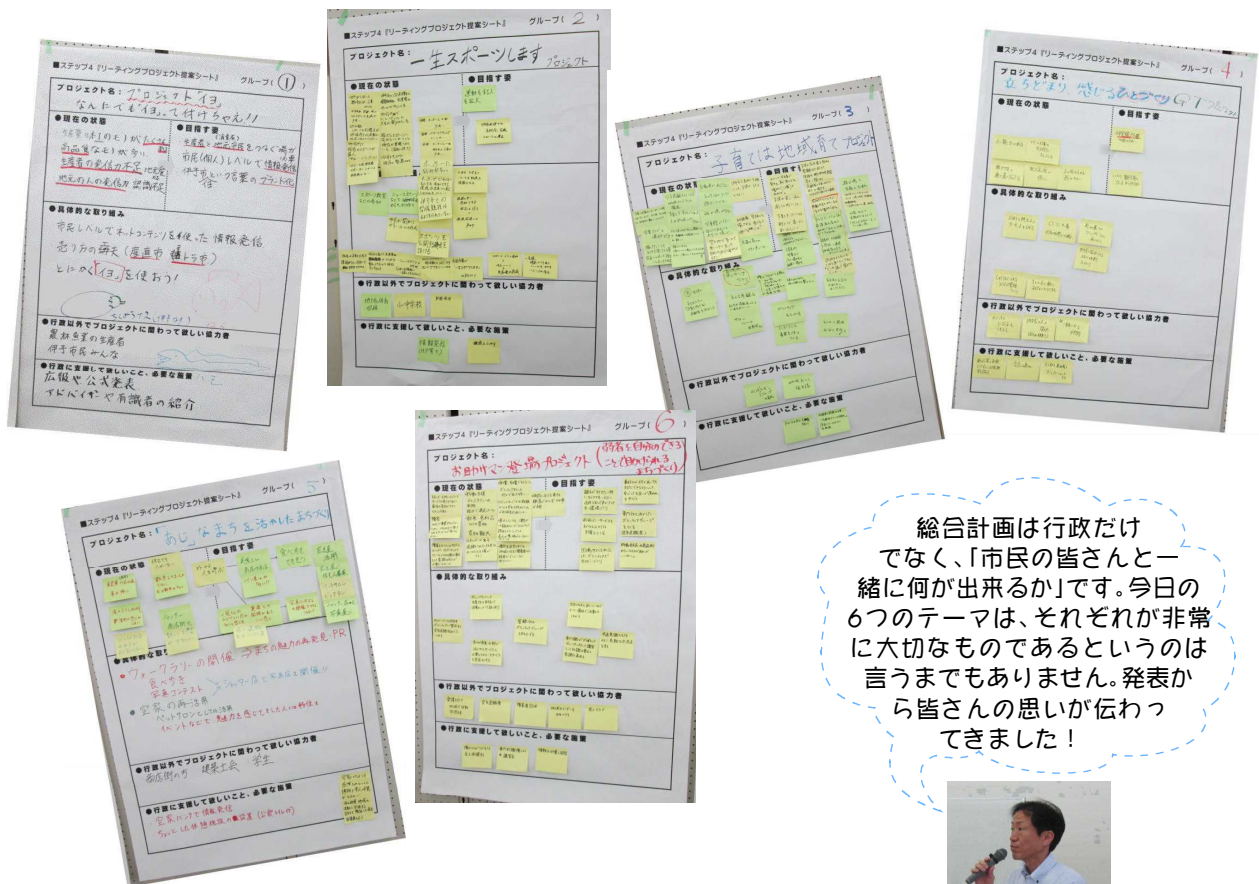
- 6つの具体的なテーマから、今後の伊予市を創造する作業はなかなか難しく、時間の制限がある中、突っ込んだ話もあまりできませんでした。他の班の考え方やアイデアなど伺っていると、全てのテーマに共通する事や斬新な考え方など、勉強になりました。ありがとうございました。
- 今回、テーマを提案する側で参加しましたが、実現可能なプロジェクトの立案の難しさをとて感じました。目指す方向を考えた時に、どうしても抽象的になってしまいがちですが、その具体的な取り組みが何なのか、それが実現できるかどうか、それを協議し意見の集約をすることの大切さ、難しさを感じることができました。ありがとうございました。
- 障害者福祉と高齢者のパワーの上手な使い方を見つけることができた。よかったと思う。
- 自分のグループでは子育てについてプロジェクトを考えましたが、意見を出し合う中で、地域のつながりが大切であることが実感出来た。また他のグループの発表からも、市民が主体となって活動することも、活動を続けるのに必要なことだと感じた。大学生や市民の方の声や意見を聞けてとても良かった。
- 初めて参加しました。長時間だし内容も難しいので大変よと聞いていましたが、知人もいたりして話しやすく、あっという間に時間が経っておりまして。いい勉強をさせて頂き、有り難うございました。
- 本日初めて参加させて頂きました。大変勉強になりました。また機会があれば皆様の話を聞かせてもらえたらと思います。どうもありがとうございました。



1つでも実現していきたい

- 3回目にして初参加させていただきました。機会があれば前から参加したかったです。「総合計画策定」に向けて、少子高齢化を解消するためにも、UターンやIターン等、移住を促進することも大切な施策ではないかと思えます。「まちなか」の空洞化も解消するかも…です。いよ市産食品、商品のアピールとしては、伊予市のロゴも新しくできたことなので、いよ市産品にはロゴマークをシールにして付けてアピールしましょう！2017年国体のホッケー会場は松前に造成中？せっかく他県から競技に来てくれるのだから、受け入れ施設もつくりましょう。泊まりは松山市内なんてつまらないでしょう？あとは市営住宅にでもすればいいと思えます。
- 楽しい時間でした。伊予市の未来を行政の方、実際に実践されている方、学生さんと同じ目標に向かって話げできました。だめもとでもやってみることが大切だと思います。ぜひこのプロジェクトをやってみましょう。発言者の皆様のプレゼンがとても上手でした。すばらしい。そしてこんなにも行政の方が近くに感じた会はありませんでした。参加させて頂き、ありがとうございました。

- どの総合計画もおもしろかった。「まちづくり」は市内だけでなく、他の市町からも人が集まるような気がしてワクワクしてきました。「食」の方も女性にとっては興味あるプロジェクトで、これも女性が集まると思いました。子育てもこれから、いろんな発展が期待できるので5年後、10年後が楽しみです。
- 今回のワークショップを通じて感じたのは、1+1=2でなく、1+1=∞となる可能性があると思った。1人で考えるより多数で考えることの大切さを感じた。特にこういう場でお聞きした中で、実現可能な所は実行にうつしていただきたい。
- 今日は地域による子育てをテーマとしたプロジェクトに参加しました。子育てしやすいイベントづくり、人づくり、横の連携、情報発信というのは、目的が違えど他の施策にも共通することだと思いました。10年後を見据えて、どのように体制を整えていくか、課題はたくさんありますが、1つでも実現できるといいと思えます。



総合計画は行政だけでなく、「市民の皆さんと一緒に何が出来るか」です。今日の6つのテーマは、それぞれが非常に大切なものであるというの言うまでもありません。発表から皆さんの思いが伝わってきました！



未来づくり戦略室室長 空岡